



美術室の前にずらっと並んだ石。今号の「発問・課題設定をキーに見る 主体的・対話的で深い学び 授業実践」で紹介した愛媛県立三島高校に入校し、内海篤彦先生に案内された美術室の前で、生徒たちが楽しそうに石を立てていました。石は、何にも支えられず、自立しています。内海先生によると、立体的な創作物を作る上で、素材の重心を感じ取ることは大事なのだそうです。生き生きと創作活動に励む生徒たちの姿は、活動を「主体的・対話的」に学びへとつなげている様だと感じられました。

同校は、今年ノーベル物理学賞を受賞された真鍋淑郎氏の母校です。大先輩をたたえるべく、校舎の入り口に書道部が制作した横断幕が掲げられていました。のどかな海沿いの町が世界で活躍される人を生み出したのだと、感動を覚えた訪問となりました。(山本)



VIEWnext  
高校版は

電子ブックで閲覧可能です

『VIEW next』高校版、『VIEW21』高校版2020年4月号以降の記事は、電子ブックでご覧いただけます。ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでご確認ください。  
HOME → 教育情報 → 高校向け → 情報誌最新号

<https://berd.benesse.jp>

VIEWnext

高校版 2022年2月号

2月15日発刊  
(予定)

『VIEW next』高校版は  
年6回の発刊です

先生方からのご意見を  
紹介します

## Reader's VIEW

2021年10月号へのご意見

### 年度総括会で評価方法を共有

10月号の学習評価をテーマにした特集が、大変参考になった。中でも、福岡県立香椎高校が実践していた、日々の評価を記録する座席表型の評価表や、観点別学習状況の評価の年度総括会は、本校でも導入したい取り組みだ。特に、観点別学習状況の評価の年度総括会は、教師一人ひとりが自らの評価方法を振り返るきっかけになるとともに、教科間で評価方法を共有することもできる。各教科・科目の教師が、自分たちの取り組みを率直に伝え合えるような会にしたい。 静岡県立御殿場高校 松山 陸

### 学力を多面的に捉える意識転換を

本校では現在、2022年度から観点別学習状況の評価をどのように行えばよいかを議論している。しかし、現行からの脱却を図り、教師の授業改善や生徒の学習意欲の向上へとつなげようという話し合いにはなかなか進まない状況だ。10月号の学習評価をテーマにした特集を読み、学力を多面的に促え、それぞれのよい点を評価するといった意識を、我々教師一人ひとりが持つ必要があると改めて考えさせられた。

山口県・私立高水高校付属中学校 佐伯大介

### 生徒の「なぜ?」「不思議!」を探究のスタートに

10月号の「新課程に向けて描く『学校教育デザイン』」で紹介された鳥取県・私立青翔開智中学校・高校の取り組みは、まさしく本校が目指している形を実現したもので、共感するとともに、実践内容が大変参考になった。記事を読みながら気をつけたいと再認識をしたのが、本校でもあったことだが、すべての生徒において、探究学習と進路を結びつけなければならないと、教師が考えてしまうことだ。学びがキャリアに結びつくのは、多くが偶然的な産物だ。進路に直接結びつかなくても、生徒には、自分の「なぜ?」「不思議!」を大切に探究を深めてほしい。例えば、看護師志望の生徒が昆虫の研究に興味を持つことは、素敵なこと。関心の広がりを肯定することを、教師に推奨したい。

岩手県立花巻北高校 川村俊彦

### 伝統校の、地域人材の育成への使命感を感じた

10月号の「指導変革の軌跡」の岡山県立岡山東商業高校の記事を読み、生徒の問題解決力と自己管理能力を伸ばすことにより、地域経済を支える人材を育成するという、伝統ある商業高校としての使命感を強く感じた。教師のそうした使命感が、地域の活性化につながっているのだと思った。

長野県 匿名希望

### いじめの防止と対応について多角的に学んだ

本校は学期に1回「安心・安全な学校づくり」調査を実施しているが、改善の余地がある。10月号の「学校危機管理 基礎講座」で紹介されたいじめの防止と対応は、一部の教師が抱え込まず、学校全体で取り組むためにはどうすればよいかという点で、大いに参考になった。教師の意識転換やリスク管理、働き方改革など、管理職として学ぶべきことが多い記事だった。

静岡県立下田高校南伊豆分校 谷野公彦